客員教授紹介

貧困緩和に向けてのパートナーシップ

マケレレ大学獣医学部公衆衛生学科
学科長 ジョージ・ナシンヤマ
（任 期：2002年7月～10月）

私は、8月から10月までの3ヶ月間、ICCAEの客員教授（Ⅲ）として名古屋大学に滞在しました。ウガンダ国における獣医公衆衛生分野の専門家として農民と消費者のための研究をしてきた経験を活かし、ここでは門平助教授と共同で貧困緩和に関する研究をしました。来日するための準備、滞在中の暖かい心遣いなどスタッフの皆様には大変感謝します。また、インターネットなどの設備も充実していたので、遠く離れたマケレレ大学とも密な連絡が取れました。今後も名古屋大学とマケレレ大学のよき関係を維持し、貧困緩和に向けてパートナーシップを育んでいきたいと考えています。そして最後にセンター長の竹谷教授には、客員教授という貴重な機会を与えていただいたことに感謝の意を表します。

略歴 1960年生まれ。1984年マケレレ大学獣医学部卒業し、同年、同学部公衆衛生学科の助手として任用され、1989年に講師、1999年2月に上級講師へ昇格し、同年9月には同学科長に任命された。この間、ロックフェラー財団から奨学金を受け、1988年3月より1989年3月まで、アメリカ合衆国・オハイオ州立大学獣医学部に学び、獣医予防医学修士号を取得した。また、カナダ連邦奨学金を得て、1992年8月にカナダ・グエフ大学獣医学部（博士課程）に入学し、1996年11月に博士号（獣医疫学専攻）を取得している。同氏の研究分野は、獣医疫学と公衆衛生学であるが、特に、サルモネラ菌など動物由来の細菌による食虫毒や食品汚染の予防を専門としている。

サンパウロ大学と名古屋大学の交流協定締結に向けて

サンパウロ大学農学部教授
ジョセ・ガルシア
（任 期：2002年11月～2003年3月）

昨年、武田助教授がサンパウロ大学を訪問され、遺伝子組換え作物に関する規制に関する調査を行なわれました。その際、サンパウロ大学農学部長から、名古屋大学大学院生命農学研究科との学術交流について提案されました。学術交流協定締結の前に、共同研究等の交流を積極的に行なう必要があるということになり、その調査のために、11月から3月まで5ヶ月の間滞在いたしました。この間、生命農学研究科の各研究者と面談を重ね、私が専門とする林産・林学領域をはじめ、多くの領域で共同研究の可能性を見出しました。帰国後、サンパウロ大学のスタッフと調整し、一つでも多くの共同研究プロジェクトを立ち上げたいと考えております。また、名古屋大学を中心として発足したAC21コンソーシアムに参加を希望しており、次のメンバー募集の際には、積極的に応募したいと考えております。

専門分野においても、日本国内の多くの研究者と討論の機会を得たほか、ITTO（熱帯木材機構、横浜市）においても共同研究プロジェクトの申請を行なう予定です。個人的にも、日本の生活をエンジョイいたしました。是非、再訪したいと思っております。本センターの皆様、よろしくお願いいたします。

略歴 1954年生まれ。1978年、サンパウロ大学農学部卒業。1979年、サンパウロ大学農学部講師、1990年、助教授、1992年、教授。1992年、サンパウロ大学工学研究科より、Ph.D.取得。2002年より、森林学科副学科長。木材加工学及び木材機械学を専門とする。国際森林科学連合（ＩＵＦＲＯ）のユーカリプタス・プランテーションに関するワーキンググループを率いる等、国際的にも活躍している。

研究テーマは私の母校です

国際協力銀行（JBIC）開発第3部
内田勝巳
（任 期：2003年5月1日～2004年3月31日）

ICCAEの客員教授としてお迎えいただいたとき、私がこれまで培ってきた経験をどのような形の研究としてICCAE及び自分自身にフィードバックできるのか正直見当もつきませんでした。JBICは、これまで途上国における様々な人材開発プロジェクトに対する協力を行ってきています。そこで研究材料として使えそうないくつかのプロジェクトをピックアップして北川教授にご相談しました。そして最後にJBICプロジェクトとは全く関係のない研究テーマ案を提示したところ、私にとっては意外だったのですが、これが面白いのではないかと教授が言われたのが、現在、私が研究テーマとして取り組んでいる「アジア工科大学院のハブ及びネットワーク機能についての考察」です。

私の略歴をご覧いただければお分かりになりますがアジア工科大学院（AIT）は私の母校です。AITの詳細については私の将来の論文をご覧いただきご理解いただくこととして、このテーマで研究を行うのは私にとって非常に大きな喜びです。なぜなら、AITへの留学が、私がこれまで22年以上にわたり国際協力の現場に身を投ずることになった直接のきっかけとなっているからです。ICCEの昨年4月のニューズレターの客員教授紹介の欄にカンボジア王立農業大学のンゴ・ブンタン農業工学部長の紹介記事が掲載されていますが、同氏の略歴を見ると、1996年AIT卒業となっています。AITは農学教育の分野でも、現在も多くの人材を育ててきていることは疑いようのないことのようです。私が卒業した後、AITはどのような変遷を遂げてきているのか、楽しみながら研究を続けたいと思っています。

略歴 1954年生まれ。1979年東京工業大学工学部社会工学科卒業後、1981年タイ王国アジア工科大学院交通システム学科で修士課程を修了し、海外経済協力基金に勤務。1985年から1988年まで在バンコク駐在員事務所駐在員。1988年業務監理部評価課、1991年経済部セクター・エコノミストを経て外務省に出向、1993年から在ミャンマー日本国大使館一等書記官。1996年海外経済協力基金に復帰し環境社会開発課長。1998年から2001年まで在イスラマバード首席駐在員（この間、1999年10月海外経済協力基金は日本輸出入銀行と合併して国際協力銀行となる）。2001年開発審査部第1班課長兼総務班課長。2002年開発第3部第3班課長、2003年9月から同部次長（第3班課長兼務）として現在に至る。

研究機関研究員の紹介

佐々木太郎 プロジェクト開発研究領域・講師（研究機関研究員）

プロジェクト開発研究領域に所属。東南アジアの農科系大学コンソーシアムとの間で、農学教育のためのe-Learningネットワークを構築するための研究に取り組んでいる。専門は林政学。日本の国有林野地元施設制度や開発途上国のコミュニティ・フォレストリー、住民参加型の森林管理政策を、土地制度や林業労働力を切り口としたフィールド調査に即して分析している。研究成果では、トップダウン型の政策のなかでも運用の仕方次第ではボトムアップを図る可能性があることを示唆した。主要論文に、The Diffusion of the Provisional Cultivation Rights System in the Forest Village Project in Thailand. The 9th Biennial Conference of the International Association for the Study of Common Property (IASCP), Victoria Falls, Zimbabwe (2002). タイ東部タムボン自治体の財政と森林管理.林業経済研究 47(3):33-40（2001）等。

略歴
1971年5月　茨城県生まれ。
2003年3月　筑波大学大学院博士課程農学研究科修了。
2003年4～5月　筑波大学 博士特別研究員。
2003年6月～　本センター 講師（研究機関研究員）。